

(様式第1号)

平成23年度 第6回芦屋市社会教育委員の会議 会議録

日 時	平成24年3月13日(火) 15:00~17:00
場 所	北館4階 教育委員会室
出席者	議長 樋口 茂 副議長 牧野 君代 委員 信岡 利英 委員 古藪 令子 委員 今泉 亜紀 委員 上月 敏子 委員 万谷 直巳
事務局	教育長 福岡 憲助 管理部長 波多野 正和 学校教育部長 丹下 秀夫 社会教育部長 西本 賢史 生涯学習課長 長岡 一美 生涯学習課主査 細山 由美, 生涯学習課 竹村 忠洋, 生涯学習課 北詰 真衣
会議の公表	■ 公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

(1) 開会

教育長あいさつ

(2) 平成23年度阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会の報告

(3) Smileねっと経過報告

(4) 社会教育主事講習受講者による研修発表会

(5) 閉会

2 提出資料

- ・平成23年度阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会資料
- ・Smileねっと通信N05
- ・社会教育主事受講者による発表会資料

3 審議内容

<樋口議長>

平成 23 年度阪神北地区社会教育委員協議会第 2 回研修会の報告を事務局からお願いします。

<事務局：細山>

当日配布資料をもとに報告。

<樋口議長>

阪神北地区社会教育委員協議会第 2 回役員会には、牧野副議長と今泉委員も出席されていましたが、出席委員からご意見等ございませんか。

<牧野副議長>

芦屋市においても形は違いますが、いろんな活動をされていると思います。

<今泉委員>

確かに芦屋市においてもいろんな活動をされていますが、それを形にするには、とても力があることだと思っています。ボランティアの方々はたくさんいらっしゃるのですが、その方々をまとめていくコーディネーターやリーダー的な人材が居なければ形として残していくことは難しいと感じていますし、人材の育成や確保など難しい部分は常にあります。

<樋口議長>

形あるものにしていくためには、やはり活動の状況を整理し成果や課題をまとめ、対策を考えていくという積み重ねが大変重要なことです。やりっぱなしではなく、継続には何が必要かを常に検証することが活動には必要です。また、研修会のなかで印象的だったことは、地域団体においても意外と横のつながりが薄い状況が存在するというものでした。学校・地域・家庭が連携していく上ではやはり地域つながりは必要不可欠な要素ですので、そのあたりについても今後の課題だと認識しております。

それでは、次に Smile ねつとの経過報告を事務局からお願いします。

<事務局：細山>

3 月 6 日に開催されました Smile ねつと幹事会での内容を報告いたします。

課題となっておりました組織のあり方ですが、コーディネーターや PTA 役員など数名の委員で構成する Smile ねつと運営委員会を組織し、主に企画や運営を行い全体の方向性を決定していくものとして位置づけます。

また、現在コーディネーターが行っているボランティア募集やその登録事務、また図書・園芸・環境などのボランティア活動の周知文書の作成、図書館開室におけるシフトの作成、通信の作成などについては、とりあえずは PTA を事務局として行っていきますが、ゆくゆくは Smile ねつと運営委員会で役割を決めて分担しながら安定的な事業が行えるようにしたいと思っています。

予算についても、主な支出内容は Smile ねつと通信やボランティア活動のお知らせにかかるものですが、今後は Smile ねつと通信などはコミスク便りと一緒に配布してもら

ったり、コミスク幹事会、自治会の幹事会、福祉推進委員会など集まりに配布するなど、色々と工夫することで大幅に抑えられると思っています。しかし用紙等についても、PTAと協力して行っていますが、事業継続の過渡期でもありますので生涯学習課でも支援していきたいと思っています。

また、コーディネーターや各分野でのボランティアのリーダーの育成については、安定的な事業継続に向けて欠かせないものであり今後特に取り組んでいかなければならないものであることから、生涯学習課としても支援する方向で市民活動センターなどと連携をとりながら研修会や講習会を行っていききたいと思っています。

今後の活動内容についてですが、3月にボランティア、子ども達、学校の先生方にSmileねっこの活動についてどの様に感じているのか、今後どのような支援を必要としているかまたできるかなどについて、アンケートを行いました。Smileねっと通信の表面下段にもアンケート結果の抜粋したものを記載しておりますが、子ども達からは「図書室をあけてくれて嬉しいです」「学校がよりきれいになりました」など嬉しい意見がありました。また、負担が減りましたか？という先生方への質問には、ほとんどの先生方から軽減されましたという回答をいただきました。また今後どのような支援があればよいですかという質問では、新入生の給食配膳のお手伝い、算数の九九暗唱チェック支援、ミシンや家庭科調理実習支援、書写の指導補助、など9項目を例示し○をつけてもらう方法で行いました。○が多かった項目としては、新入生の給食配膳のお手伝い、算数の九九暗唱チェック支援、ミシンや家庭科調理実習支援などでした。今後の支援については、ボランティアさんにも同様の質問を行い、先生方に質問した同様の9つの項目を照らし合わせ、今後活動につなげていきたいと思っています。主な内容は以上となります。

<樋口議長>

経過報告についてご意見等はございませんか。

<古藪委員>

今後はもっと地域の方を取り込み地域との結びつきを強めてやっていきたいと思っています。

<上月委員>

民生委員や自治会の方などからボランティアをしたいという声をいただいております。今後はさらにネットワークが広がっていく可能性があると感じています。また教員も大変喜んでおりますし、来年度は現在ある3つボランティア以外にもさらに増える可能性があると考えておりますので大変楽しみにしております。

<樋口議長>

活動の場が広がっていくことは大変嬉しいことですし、楽しく活動することが継続への力になると思います。

それでは、次に社会教育主事講習を1ヶ月間受講されました竹村さんと北詰さんとに発表をお願いしたいと思います。

<発表者：竹村，北詰>

発表者：生涯学習課 竹村忠洋，北詰真衣

受講大学：京都教育大学

受講期間：平成23年7月25日から8月26日

受講科目名：生涯学習概論，社会教育計画，社会教育演習，社会教育特講（計9単位・166時間）

講習会では地域の活性化「まちづくりと社会教育」部会を組織し、「すべての世代が安心していきいきと暮らすことのできるまち，生涯，幸福に暮らせることができるまちづくり」を目標に設定し，自治体の抱える課題等を考え他市の取り組み等も紹介しながら地域の活性化についての研究内容を発表。

<樋口議長>

ありがとうございました。

社会教育主事講習ということで社会教育に関する最新の研究情報に触れることができたと思っておりますが，内容等について何かご質問等はありませんか。

<万谷委員>

発表の中でマンパワーの養成が必要とありましたが，研修会の中ではその人材育成の仕組みづくりについて具体的なものはありましたか。

<北詰>

短期目標，中長期目標の両方を視野に入れプログラムを企画することにより，地道な活動が地域住民の主体的・自律的な活動の継続につながり，ひいては人材の育成につながると感じました。

<竹村>

人材育成等にかかる理論や方法論等について，こうすればこうなるというようなものはまだ確立されていないと思っています。個々の現場の中で生み出されるものだと感じます。

<信岡委員>

市民参画課の企画で子育てとまちづくりをテーマに話し合いを持ったときのことですが，時間が足りなかったほど盛り上がりました。芦屋市は大変市民の意識の高いまちだと思っています。東日本大震災における支援においても，芦屋市は石巻市への支援を行っており，市民団体においてもA Iプロジェクトなど様々な支援活動を行っています。それにも関わらず支援活動を知らない市民が多すぎると思います。もっと行政と市民団体とが協力し情報を発信しなければならないと思います。そうすればもっと広がりのあるものになると思います。

<万谷委員>

せっかく活動しているのに広がりがないのはもったいないと思います。情報をどれだけ多く提供できるか，これは活動自体にも大きく影響していきます。

<牧野委員>

石巻市への支援については、新聞紙上等でも報道されていましたが情報は与えられるものという意識ではなく、常に自分たちで収集しようという心構えが必要であると思います。それがつながりを生み出すと思います。主催する側の情報発信の方法もちろん重要ですが、やはり各自がアンテナを常に張っておくことが大切であると思います。

<樋口議長>

他の委員からは何かご意見・ご質問等はありませんか。

<今泉委員>

ボランティア団体は学校や地域などにたくさん存在していると思います。ボランティア団体の横のつながりを持つには、やはりどこか取りまとめる所が必要であると感じています。PTA 活動を通して感じたことは、芦屋市は比較的行政と市民が近い位置にあるということです。いろんな意味で行政と相談できる場が与えられていますので、うまく関わっていったらもっと広がりが出てくると思います。

<古藪委員>

世代交代について、どの様に活動をつなげていくのか今大変深刻な問題となっていますが、そのあたりのことは研修会では何か意見等ありましたか。

<発表者：北詰>

世代交代については、部会においても話し合いを持ちましたが、これといったものはやはりありませんでした。しかし、長い時間をかけて自分たちが地域を担っていくんだという意識付けから地道にやっていくことが、スムーズな世代交代を実現し、活動の継続に繋がっていくと思っています。

<樋口議長>

教育長はどの様に考えておられますか。

<教育長>

顔と顔を合わせる大切であると思っております。1回きりのイベントも良いですが、長期的な活動を行うことがつながりを生むと考えます。裏方で支えてくださっている方をどのように育成していくかが鍵だと思っています。

<上月委員>

Smile ねっとの活動から感じたことですが、子ども達の中で学校清掃ボランティアさんの掃除の仕方を見て「カッコいい」と感じている子ども達がありました。しかし一方では全く関心を示さない子ども達もいました。この「自分たちの周りに関心を持つ」という感性を養うことが、未来の地域を担う世代の育成につながっていくものではないかと考えています。そのためには私たちが子ども達に向けていろんな機会や仕掛けをおこなっていくことが重要だと思っています。Smile ねっど活動についても、今後は子ども達や教員にどれだけ浸透させていけるかを課題に取り組んでいきたいと思

っています。

<信岡委員>

活動していることをもっと伝えるべきだと思います。情報を提供することで、市民の向上心を奮い立たせる契機になると考えますし、情報の共有化を図ることは大変重要だと思います。

<樋口議長>

社会教育施設を使った活動を企画していく上でも、生涯学習のニーズを敏感に感じ取りながら今何が求められているのか常に意識しておく必要があると思います。

教育委員会内にある生涯学習課という位置づけでは、社会教育という大きな視点でとらえる場合やはり限界があると思いますので、市長部局とも連携をとりながら行政内部の横のネットワークの連携も図り社会教育に取り組んでほしいと思います。

<万谷委員>

市長部局と教育委員会において情報の共有化すら図れていない部分があると感じています。

<樋口議長>

社会教育委員としての役割としては、人と人をつなげること、地元において地域のことをよく知った上で行政との橋渡しを行うだと思っています。社会教育活動の取り組みが芦屋市の文化レベルの向上につながるとしています。

では、続きまして事務局から連絡事項をお願いします。

<事務局：細山>

平成24年度兵庫県社会教育委員協議会関連日程及び平成24年度芦屋市社会教育委員の会議の日程について連絡。

平成24年度 第1回社会教育委員の会議

平成24年5月8日（火）15：00から17：00

<樋口議長>

その他、特にございませんか。

<万谷委員>

来年度の社会教育委員の会議での提言について伺いたいです。

<樋口議長>

今年度は、Smileねっとの取り組みを中心に学校・地域・家庭の連携協力をテーマに協議を行って参りました。来年度のテーマについては、各委員がそれぞれテーマを持ちより第1回の会議の中で協議したいと思いますがよろしいでしょうか。

<全委員>

異議なし

<樋口議長>

ではよろしくをお願いします。

<牧野副議長>
閉会あいさつ

終了